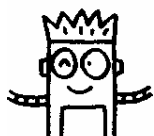


にっこうとうしょうぐう

日光東照宮は、どんな神社なの



とくがわいえやす

徳川家康を神として祭っている神社だよ。

徳川家康を「東照大権現」として祭った

1616年4月に家康が駿府城（静岡市）で亡くなると、幕府は遺言にもとづいて、遺体を久能山にほうむり、1年後に日光にうつしました。日光では、わりあい質素な東照社が建てられ、家康には朝廷から、「東照大権現」の神号（神としての名前）があたえられました。東照社は、家康の宗教に関する相談役だった、天海という僧の主張により、山王一実神道という、神と仏を一つのもつと見なす考えにもとづいて建てられたので、神社とお寺を混ぜたような建物になりました。

今の日光東照宮は、家光が大改築したもの

3代将軍家光は、1634～1636年に、東照社を全面的に建てかえました。その後も、奥社などの工事が続き、全体が完成したのは、1643年ごろでした。これが今の建物で、1645年に、東照宮と名を改めました。大改築にかかった費用は、金56万8000両、銀100貫、米1000石で、作業した人の総のべ人数は、454万人にもなりました。

当時の最高の美術工芸家を集めた

大改築を指揮した人は、甲良宗広という、近江国（滋賀県）出身の大工の棟りょうです。建物の壁画や色塗りは、狩野探幽が率いる狩野一門と長谷川派の絵師たちです。そのほかにも、漆工・まき絵・石工・仏師などの名人が、うでをふるいました。彫刻では、泉州堺（大阪府堺市）の和泉忠兵衛、播磨国（兵庫県）の左甚五郎らの名前が伝えられており、「眠りねこ」の彫刻が左甚五郎の作品だ、といわれています。



207段の石の階段を上った奥社に、家康のお墓があるのよ。